

第7分科会

音楽教育

8

音楽表現の喜びを味わう子どもの姿をめざして

1. 設定理由

音楽科では、音楽を愛好する心情、音楽に対する感性、音楽活動の基礎的な能力は密接な関係にあり、常に相互に関係し合いながら豊かな情操を養うことが教科の目標実現のためのプロセスであると考えられている。本校のめざす学校像に「あいさつ、歌声が響く楽しい学校」とあることから、音楽学習の成果を交流し合いながら音楽活動の幅を広げ、豊かな情操を養うことが、学校教育目標の達成に近づけると考えた。

また、自分の思いや意図を積極的に発信できないという本校の児童の実態から、音楽を中心に自分の思いや意図を自由にのびのびと表現し、自信をつけることは、すべての教育活動において自信を付けることにつながると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

表現の支えとなる演奏の技能を高め、個に応じた効果的な支援を工夫すれば、児童個々の音楽に対する意欲が増し、音楽表現の喜びを味わうことができるであろう。

3. 研究内容

- 児童の実態調査と、実態に応じた指導方法の工夫
- 日常実践の工夫
 - ① 苦手意識をなくすための工夫
 - ② 技能を高め、思いや意図を表現するための学び合いの工夫
 - ③ 意図的な異学年交流学习

4. 結論

- 個に応じた支援をすることで、個々の音楽の技能が向上し、自信をもって表現する児童が増えた。
- 異学年の交流学习を意図的に取り入れることで、表現活動に対しての苦手意識が少なくなってきた。

7

香取支部
香取市立香取小学校
吉田 理

1 研究主題 音楽表現の喜びを味わう子どもの姿をめざして

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

学習指導要領では、21世紀は「知識基盤型社会」の時代といわれていることから、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことが重要になってくると述べられている。そして、基本的な考え方の一つに「豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実」という内容が掲げられている。

音楽科としては、「音楽のよさや楽しさを感じ取るとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること」「音楽と生活との関わりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむこと」を重視して指導の工夫がなされることが求められている。

そこで、本校では音楽の基礎となる技能の習得を確実にすること、音楽を愛好する心情を培うことのバランスをとりながら活動することで、表現することを楽しむ児童の育成ができると考え、本主題を設定した。

(2) 学習指導要領から

音楽科の目標は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」と示されている。「音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い」は、音楽活動を活発に、かつ、効果的に進めるための重要な内容である。音楽を愛好する心情、音楽に対する感性、音楽活動の基礎的な能力、これらは密接な関係にあり、常に相互に関係し合いながら豊かな情操を養うことができる。

本校では、4・5・6年生の音楽を専科が担当していることを生かし、学習の成果を交流し合いながら音楽活動の幅を広げることが、豊かな情操を養うことにつながると考えた。

(3) 学校教育目標から

本校では、合い言葉を「進んで㊟いさつ・㊟うじ・㊟んきょう」とし、学校教育目標を「心豊かでたくましく生きる児童の育成」としている。具体的に、「笑顔いっぱい 元気いっぱい 友達いっぱい」を三本柱とし、めざす学校像の一つに「あいさつ、歌声が響く楽しい学校」を掲げている。

研究主題である「音楽表現の喜びを味わう子ども」の姿はまさに本校のめざす児童像であり、合唱や合奏、音楽づくりなどの活動に積極的に取り組む児童の育成をめざしたい。

(4) 児童の実態から

本校は、利根川流域の台地に位置し、稲作・果樹・園芸などの農業を主とした地域である。歴史的には、香取神宮の建立とともに門前町としてにぎわい、香取神宮に関わる伝統的な風習が多く残されている。また、三世代、四世代家族の割合も高い。

さらに、この地域は1951年佐原市に合併されるまでの間、香取町として単一の行政区画であったことから住民のまとまりがよく、伝統的に教育への関心が高い。

本校の児童は明るく、元気で、素直である。教えられたことは素直に聞くことができるが、自分で判断して行動したり、自分の考えを文章でまとめたり、適切な表現をしたりすることが苦手な傾向にある。

高学年（４・５・６年）は、歌うことが好きな児童が多く、毎月の歌をのびのびと気持ちよく歌っている。二部合唱ができる曲で全校音楽集会を行うときは、５・６年児童が副旋律パートを担当するので、朝の会の歌の時間で、他の学年と交流して合唱練習をしている。また、６年児童を中心に指揮者や伴奏者を選出することで、学級全体でその楽曲の特徴を考えたり、指揮の方法を学んだりするよい機会となっている。授業では、月の歌を練習してから教材の学習に入ることで、音楽の学習の流れをつかみやすくなっている。

器楽についても関心が高く、いろいろな楽器を積極的に演奏しようとする児童が多い。運動会では、金管鼓笛隊の演奏を経験することから、楽器に対する関心が高くなっている。香取神宮に奉納演奏をするという経験も、児童にとって貴重な経験である。

また、本校では毎年１１月に児童発表会を行い、日ごろの音楽活動を保護者や地域の名達に見ていただく機会を設けている。３・４年生は、香取市佐原地区音楽会で発表した曲を中心に発表し、５・６年生は、教科書教材を中心に選曲し、合唱と合奏を発表する。多くの人に聴いてもらうという大きな目標に向けてがんばることができるので、技能の向上につながっている。

このような音楽活動を通して、音楽が好きで、意欲的に関わろうとする児童が増えているが、自分の思いや意図を積極的に発信できない児童も多い。そこで、音楽活動において、自分の思いや意図をのびのびと表現し、自信をつけることは、すべての学習活動において自信をもつことにつながると考え、本主題を設定した。

3 研究の目標

音楽の学習活動を通して、仲間と協力しながら一つの曲を仕上げていくという過程を通して、思いや意図を表現するために思考したり、創造的に演奏したりすることができるようになる指導のあり方を探求する。

4 研究の仮説

表現の支えとなる演奏の技能を高め、個に応じた効果的な支援を工夫すれば、児童個々の音楽に対する意欲が増し、音楽表現の喜びを味わうことができるであろう。

手立て①（実態に応じた適切な支援）

- ・楽譜が理解できない児童が多いため、階名唱を積極的に取り上げる。階名で歌えるようになることで、楽器の演奏にスムーズにつながると考える。
- ・拡大楽譜を活用して、楽譜に親しめるようにする。
- ・リコーダーが苦手な児童のために、教員が鏡となって指遣いの支援をする。

手立て②（意欲の向上のための工夫）

- ・定期的に異学年の交流を取り入れ、成果の発表の場を作る。（担任への発表もあり）
- ・学級の実態に合わせた指導法の工夫をする。

5 研究内容

(1) 児童の実態調査

- ア 専科担当学年（4・5・6年）の意識調査
- イ 意識調査を活用した指導法の工夫

(2) 日常実践の工夫

- ア 苦手意識をなくすための工夫
- イ 技能を高め、思いや意図を表現するための学び合いの工夫
- ウ 意図的な異学年交流学习

6 研究の実際

(1) 児童の実態

- ア 4年生（男子4人、女子2人、知的学級女子2人、情緒学級男子1人 計9人）

1 音楽の学習は好きですか？		
好き	7人	・歌が好き。 ・リズムをとるのが楽しい。 ・リコーダーが楽しい。 ・授業がおもしろい。
どちらかといえば好き	1人	・歌は得意。
どちらかといえば嫌い	1人	・歌は好きだが、楽器が難しい。
嫌い	0人	
2 楽器はわかりますか？		
はい	4人	※ピアノを習っている児童3人
少しなら	0人	
わかるようになりたい	4人	
いいえ	1人	
3 ここがわかればもっと好きになれる！		
・リコーダーの高音、#やbの指遣い。		
4 音楽の授業でもっとやりたいことは？		
・リコーダーでもっと難しい曲に挑戦したい。 ・合奏をやりたい。 ・鍵盤ハーモニカの演奏をもっとやりたい。 ・新しい楽器を演奏したい。		

4年生は、昨年度までは担任の指導であったが、本年度から専科指導になった。リコーダーの指遣いが苦手だと感じている児童が多いので、支援が必要である。しかし、難しい楽曲にも挑戦したいという意欲があるので、基礎的な技能を身に付けるとともに、みんなで合奏する喜びを味わわせていきたいと考えている。

特別支援学級児童の3人も交流および共同学習を行っているので、個の支援が必要である。支援員と協力して、個の実態に合わせた目標設定をして取り組んでいる。

イ 5年生（男子6人、女子5人、情緒学級女子1人 計12人）

1 音楽の学習は好きですか？		
好き	7人	・みんなで歌ったり、新しい楽器の演奏が覚えられたりするの楽しい。 ・いろいろな曲を歌ったり演奏したりするのが楽しい。 ・ピアノを習っているので音楽に興味がある。 ・音符がえられる。
どちらかといえば好き	5人	・聴くのは好きだが、演奏は苦手。 ・歌は好きではないが、聴くのが好き。 ・苦手だけれど、うまくできると楽しい。 ・楽器は楽しい。
どちらかといえば嫌い	0人	
嫌い	0人	
2 楽譜はわかりますか？		
はい	3人	※ピアノを習っている児童3人
少しならわかる	4人	
わかるようになりたい	5人	
いいえ	0人	
3 ここがわかればもっと好きになれる！		
・リコーダーが苦手なので、好きになればよい。 ・階名がわかれば ・楽器の演奏の仕方		
4 音楽の授業でもっとやりたいことは？		
・パート練習のある二部合唱 ・他の名への発表 ・リズム感のある歌 ・音楽づくり（オリジナルの音楽づくり） ・打楽器 ・交流会 ・歌と楽器を合わせたい。		

5年生は、昨年度から専科の授業である。歌唱を好む傾向にあり、表情豊かにのびのびと歌う児童が多いが、音程をうまく取れない児童もいる。本年度は、パート練習の方法を覚え、自分達で練習をしたり、課題を見つけたりして意欲的に取り組んでいる。

また、朝の会では、自分たちから他の学年と一緒に歌いたいことを担任に提案したり、練習の成果を他の学年や担任に発表したりするなど、積極的に音楽活動に取り組んでいる。

階名が理解できるように、階名唱を取り上げたり、楽譜に親しませたりする工夫が必要である。

ウ 6年生（男子8人、女子10人 計18人） ※うち1人は未実施

1 音楽の学習は好きですか？		
好き	15人	・合奏も合唱も大好き。 ・楽譜が読めたときうれしい。 ・聴いたり、楽器を使ったりするのが好き。 ・みんなで音楽づくりをするのが好き。 ・低音パートを歌うのが楽しい。 ・いろいろな楽器でいろいろな音を楽しめる。
どちらかといえば好き	2人	・演奏が楽しい。 ・おもしろい。
どちらかといえば苦手	0人	
苦手	0人	
2 楽譜はわかりますか？		
はい	4人	※ピアノを習っている児童 4人
少しならわかる	10人	
わかるようになりたい	3人	
いいえ	0人	
3 ここがわかればもっと好きになれる！		
・今のままで十分好き。 ・リコーダーの指遣いがわかればいい。		
4 音楽の授業でもっとやりたいことは？		
・みんなでたくさん合奏したい。 ・音楽づくりが楽しいからやりたい。		

6年生も、昨年度から専科の授業である。人数は多いが、あまり声を出そうとはせず、合唱の声が小さくなりがちな傾向にある。自信がもてないことが原因のようである。パート練習は自分達でどんどん進めることができ、音程がしっかりとれると自信をもって歌えるようになるので、練習の時間をしっかりと確保する必要がある。

音楽づくりの学習を好み、グループごとに工夫して音楽を作り上げる活動を好む。楽器の特徴を生かして音を探したり、リズムを工夫したりして楽しむことができるので、興味を持続して様々な学習活動を工夫する必要がある。

全校音楽集会では、指揮者や伴奏者を6年児童から選出し、音楽主任と連携して指導し、全校の前で披露している。

(2) 授業実践

ア 苦手意識をなくすための工夫

(ア) リコーダーや鍵盤楽器の練習

リコーダーの指遣いは苦手だと考えている児童が多く、実態調査によるとどの学年にも指遣いがわかれば好きになれると考えている児童がいる。そのためにスモールステップで指導するように心がけている。

- ① 階名を確認する。(拡大楽譜を活用する。)
- ② 階名で歌ってみる。
- ③ 階名で歌いながら指遣いを練習する。
- ④ 演奏する。

このように、いつも同じ方法で練習することで階名にも親しみ、音階と指遣いが結びつくようになって考えた。

また、教員が鏡となって指遣いを示したり、横で一緒に演奏したりすることで苦手意識のある児童の不安感を取り除き、教員の指を真似しながら指遣いを覚えていくことができる。

音楽は好きだけれど技能が追いつかないことで不安を感じて

いる児童が多いので、安心感を与えることになる。【児童から見て真似しやすいように！】



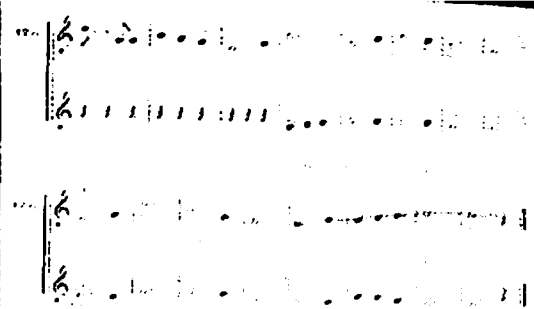
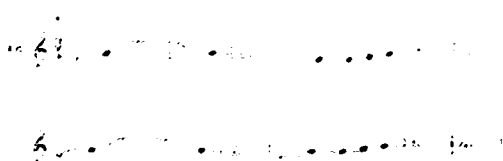
(イ) 拡大楽譜の活用

児童の実態調査から、楽譜がわかるようになりたいと考えている児童が多いことがわかる。そこで、無理なく楽譜に親しみ、自然に音符や記号を覚えられるように教科書の楽譜を拡大コピーして活用している。

【配慮すること】

- 教科書と同じ位置関係にして提示する。(印をつけることも多いので、同じ状態で提示しないと混乱してしまうため。)
- 音楽の仕組みに自然に目が向くように楽譜に書き込みをする。
- 楽譜上で、音の高さや長さに目が向くように印を入れて提示する。

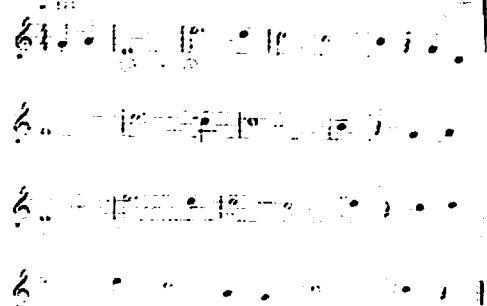
× エーテルワイス ×



似たメロディーに同じ色の印をつける。音符に印をつけることで、音程に目が向くようにする。

拡大譜には、階名をふって支援するが、自分の教科書にはふらないようにしている。(階名をふることに慣れてしまうと、いつまでも階名が、覚えられないと考えているから。)

× ハロー サミンク ×



イ 技能を高め、思いや意図を表現するための学び合いの工夫

(ア) 合唱指導

高学年の合唱指導では、二部合唱が取り入れられていることから、5・6年生はパート練習を取り入れている。

○パート練習の進め方を児童に教え、自主的に練習できるように支援する。

- ・それぞれのパートごとに拡大譜を用意する。
- ・パートリーダーを中心に場所を分けて練習する。(CDを活用して自主的に音程をとりながら練習する。)
- ・音程が不安定なパートは音楽室で、教員と一緒にピアノの音程を確認して練習する。
- ・課題が見つかったり、直しが必要などころがあったりした場合は拡大譜に記入する。

自分達でイメージを決定する。

パートのメンバーも楽譜に記入

直したい箇所発見!

伸ばす長さを確認!



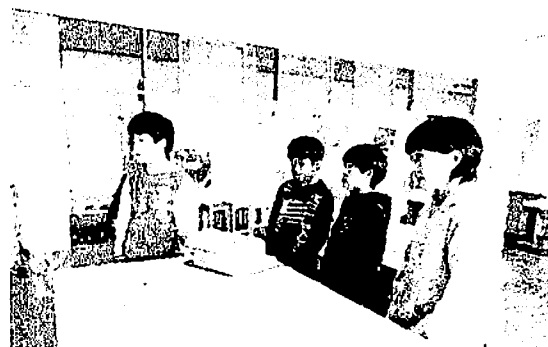
【ピアノ使って音程を確認する】



【直さなければいけないところは楽譜で確認】

ピアノとCDを両方活用することで、2箇所での練習が可能になる。また、日常で楽譜への書き込みをしていることから、抵抗感なく楽譜に書き込みをすることができている。

自分達で歌い、課題を見つけ、自分達で直しながら練習することができるようになってきた。パート練習の後は、音程が安定する良さもうまれた。



【CDがあれば、理科室でもできる！】

(イ) 合奏指導

6年生は、本校では一番人数が多い。人数が多いために一人ができなくても音楽活動が成立してしまうことに甘えがちな児童もいることから、グループアンサンブルを取り入れた。

楽器演奏に不安を抱えている児童もいる実態から、全員がいろいろなパートを経験してからパートを決定し、グループは無作為（くじ）で作り、男女混合でできるようにした。自分に合った楽器パートを選ぶことで不安が取り除かれ、意欲的に活動することができた。

また、少人数で音を合わせるのは、学級全体で合わせるより難しいことに気付き、一人ひとりの演奏がきちんとできることが重要であることがわかった。

単元の最後に、お互いのグループアンサンブルを聴き合うミニ発表会を実施した。



【18人を3グループに分けてアンサンブル練習！】

「うまくリズムが合わないなあ。」

そんなときは、グループ内で教え合って合わせる。一人ひとりができないとアンサンブルにならないので、自然と学び合い学習が生まれる。



ウ 意図的な異学年交流学习

2015年度・2016年度と、授業時間で取り組んだ音楽づくり音楽の発表会を实践している。2015年度は、自分が5年生を担当し、6年生の音楽を担当していた。5・6年生の音楽づくりの学習を同じ時期にし、発表し合う計画を立て、4年生担任にも声をかけて同じ時期に音楽づくりに取り組んでもらい、3つの学年で交流会を実施した。

先輩達の音楽を聴いたことで、2016年度の学習がスムーズに始まった。前年度の鑑賞経験を生かし、自分達の作りたい音楽をイメージするのがとても早かった。

【6年生の実践 じゅんかんコードから音楽を作ろう】

- ①循環コードの仕組みを知る。
- ②4分の4拍子×4小節の音楽を1名一つ作る。
- ③お互いの音楽を聴き合う。
- ④曲の感じをもとに2チームに分ける。
- ⑤演奏の順番を決める。和音に合うように音程を調整する。
- ⑥チームごとに練習する。伴奏で使用するエレクトーンの効果音を追加して仕上げる。



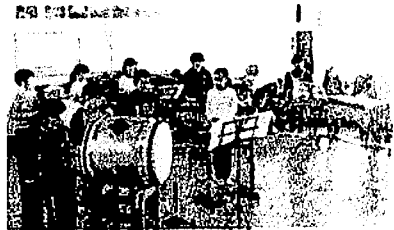
【5年生の実践 インターロッキングの音楽を作ろう】

- ①インターロッキングの音楽の仕組みについて知る。
- ②もともになるリズムを組み合わせ、「たてと横の関係」を実感する。
- ③チームを作る。(無作為)
- ④自分の担当するリズムを決め、楽器を選ぶ。
- ⑤繰り返しの回数、強弱、速さなどに気を付けて仕上げる。



【4年生の実践 音の組み合わせや進み方を選んで音楽を作ろう】

- ①教科書にある4つのリズムを体験する。全員が全部のリズムを経験し、順番に交換しながら合わせる楽しさを味わう。※実態から、自分のリズムは作らずに進めた。
- ②4つのリズムのどれを選んだかでチームを作る。
- ③リズムを組み合わせ、チームごとに楽譜を作る。
- ④楽器を決め、強弱や演奏方法の工夫をしながら練習し、仕上げる。



自分の色を決める。

誰が、どこで演奏するか見てわかるように楽譜に表す。

【交流会を開く】

交流会で発表することを知らせると、どの学年もチーム名を決めたり、曲名を考えたりするなどの工夫をして練習するようになった。目的意識をもって練習することで、意欲も技能も向上が見られた。

交流会は、低学年児童や校長・教頭も参観し、児童も張り切って発表していた。会終了後、反省をまとめ、それぞれの学級に掲示してもらった。(反省のまとめは、資料編に掲載)

黒板にプログラムを掲示した。
(実際のプログラムは資料編に掲載。)



【交流会～発展～】

卒業式後、4・5年生の「この年最後の成果を発表したい！」という思いから再び交流会が実現した。4年生は、合唱「南のマジックアイランド」・合奏「ラ クンパルシータ」を、5年生は合唱「君をのせて」・合奏「ゴジラ～メインテーマ」を発表した。担任はもちろん、職員室の職員も集まって鑑賞した。

この2学年で、音楽会で発表した「にじ」を一緒に歌いたい！という4年生の強い思いから、みんなで丸くなって「にじ」を合唱することもできた。

2017年度の5年生の音楽の授業の第一声は、「先生！ゴジラいつやるんですか？！」だった。先輩の音楽を聴くことで、より意欲的に音楽活動に取り組むことができている。



【4年生の合奏】



【5年生の合唱】



【先生方も一緒に、みんなで合唱♪】



7 成果と課題

(1) 成果

- 学級の実態に応じた指導方法の工夫をすることで、児童一人ひとりが安心して音楽の活動を楽しむことができるようになった。
- 楽譜に親しませることで楽譜に対する苦手意識が減ってきている。
- 異学年の交流を意図的に仕組むことで、次学年への意欲付けになり、積極的に音楽表現に取り組もうとする児童が増え、表現活動に対しての苦手意識が減ってきた。

(2) 課題

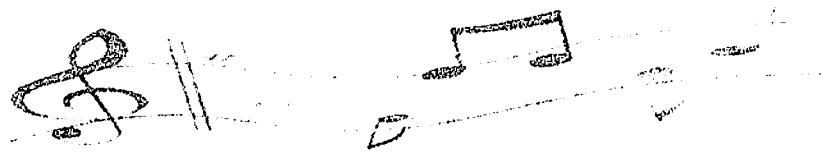
- より楽しい音楽の授業作りに向けて、児童一人ひとりの技能の実態をより詳しく把握し、個に応じた支援方法について研修を深める必要がある。
- 鑑賞教材と、合唱・合奏教材をうまく結び付けて指導することができないので、研究を進める必要がある。
- 音楽づくりの学習の効果的な指導法について、さらに研修を深めたい。

【参考文献】

小学校指導要領解説 音楽編 文部科学省
教育音楽 小学版 音楽之友社

資料編

♪香取小学校 音楽交流会プログラム♪



学年	チーム	曲
4	かがやきメロディー	ドリームシンフォニー
	リズム天国	ファンタジー天国
	かとジュニ	ジュニバン
	4年全員 『ジュニ天シンフォニー』	
5	松茸5	松茸8年クッキング
	トリプル6	6レボリューション
	HTSHJK	白玉協奏曲 第11番
	5年全員 『5年協奏曲 第18番』	
6	カルボリータ	楽しい音楽～イントロつき～
	フルビアート	フルーツファイアー
	6年全員 『NANGOKU パーリーピーポー』	

4・5・6年生が作った曲を聴き

楽しいひと時を

お過ごしください♪



♪香取小学校 音楽交流会♪ 氏名

学年	チーム	曲	感 想
4	かがやき	ドリーム	
	メロディー	シンフォニー	
	リズム天国	ファンタジー 天国	
	かとジュニ	ジュニバン	
	4年全員 『ジュニ天シンフォニー』		
5	松茸5	松茸8年 クッキング	
	トリプル6	6レボリ्यूシ ョン	
	HTSHJK	白玉協奏曲 第11番	
	5年全員 『5年協奏曲 第18番』		

6	カルボリータ	楽しい音楽 イントロつき	
	フルビアータ	フルーツ ファイアー	
	6年全員 『NANGOKU パーリーピーポー』		

交流会はどうでしたか？ 曲づくりは楽しかったですか？

感想をまとめましょう！！（12月中に提出♪）



♪4年生へ♪

5年生から・・・

- きれいな音色！木琴などの楽器のリズムがいい感じ！
- 楽器の組み合わせ（太鼓と木琴・鉄琴）がよかった。
- 音の重なりや響きがよかった。
- 3チームの音楽がいい感じに組み合わせられていた！
- 途中の手拍子がよかった。音の強弱を考えてあってよかった。
- 4年生は、チームワークとリズム感がいい！
- 鉄琴の使い方が上手！
- 最後のウインドチャイムがよかった～♪
- 頭に残る音楽！木琴や鉄琴、タンバリンなど、音の重なりがよかった！
- 全部のチームが合わさるととてもよい！
- 強弱がつけられていてよかった。
- 全チームの音が重なってきれい！めっちゃイイ！！

6年生から・・・

- 最後のウインドチャイムがよかった。
- 手や楽器の組み合わせがよかった。
- 鉄琴や木琴の音の強さや高さを工夫していたところがよかった。
- 一つ一つのチームがどんどんつながっていくところがよかった。
- 4年生らしさが出ていた。
- 少しずつずれてはいるけど、すごくよかった！
- 楽器が少なくなっても演奏が続くのがよかった。
- 最後のクレシェンドがよかった。
- 神様にささげる曲のような仕上がり！
- いろいろな曲の組み合わせがよかった。
- みんながよく楽譜を見て合わせていてよかった。
- リズムが決まっているのに、すごく楽しい感じに仕上がっている。



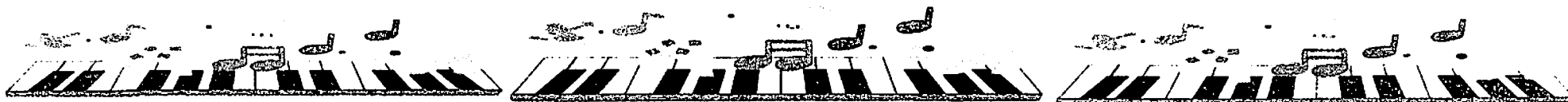
♪5年生へ♪

4年生から・・・

- 最後に間が空いたからもう終わりかな？と思ったら一気にきてびっくりした。
- お祭りみたいな曲や、アリスの音楽みたいな曲があった。
- 手拍子がすごくよかった！
- 最後に迫力があった！
- 手拍子や楽器の組み合わせがよかった。
- 不思議な世界に迷い込んだみたいだった。
- みんなの息が合っていてきれいだった。
- さすが先輩！カッコいい！
- あわせ方が工夫してあってすごい！早く5年生になりたい！
- 曲名がおもしろい。いろいろな楽器を使っていてよかった。
- 手拍子や和太鼓があって迫力があった。
- 速さや強弱を工夫していてすごかった。

6年生から・・・

- 手や楽器を使い分けていてよかった。
- 強弱や手拍子があってよかった。
- 「5年協奏曲」は、上手につないでいてよかった。最後はみんな合っていた。
- クッキングの感じがよく出ていた。トリフルもは、キーボードの音色を変えていてよかった。HTSHJKは最後小さくしたのがよかった。
- 終わり方がすごかった。(寿命ちんだ)
- 手拍子と楽器の組み合わせがよかった。
- リズムが変わっていくところがすごい。
- 黒鍵と白鍵の組み合わせがいい感じだった。「協奏曲」だけあって、外国の音楽のようだった。
- 最後すごい！みんな合っていた！フラボー！！



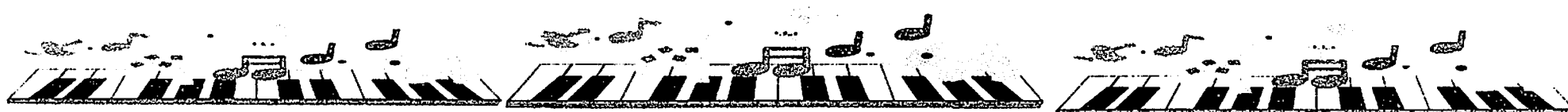
♪6年生へ♪

4年生から...

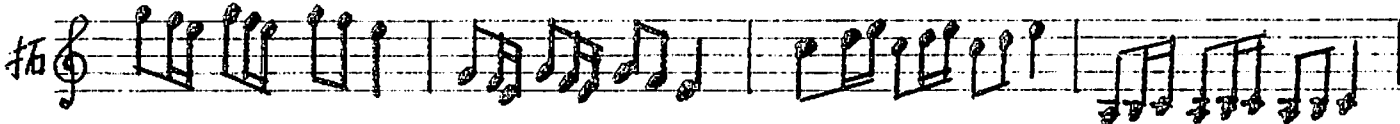
- 鍵盤ハーモニカや、いろいろな音がきれいに混じって、よくそろっていてきれいだった！
- 6年生が作ったとは思えないほどきれいだった！
- キーボードでこんなにきれいな音が出るなんてびっくり！まるでプロの人みたい！
- かっこいい！最高！6年生すごい！！6年生が作ったとは思えないほどすごい。うまい。言葉にできない。全部すごい！！
- かっこいい！最高！感動した！フルーツがいっぱいになったみたい。すごかった。
- いろいろな人がかわるがわる演奏していてすごかった。穏やかな曲で気持ちよくなった。
- 鍵盤ハーモニカがすごい。さすが6年生。
- 中学生になったらどんな曲を作るんだろう。楽しみ♪

5年生から...

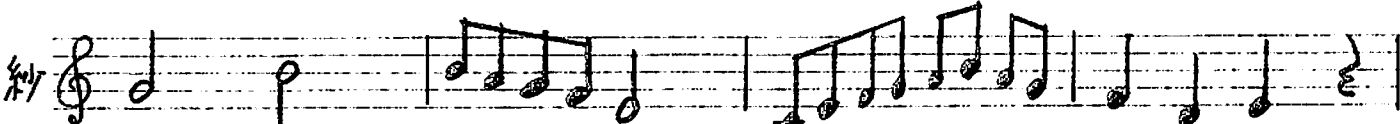
- キーボードや鍵盤ハーモニカいろいろな音が出ていてすごい！かっこいい！来年できるかな...
- イントロついてる、すごい！チームワークいい！さすが6年生！
- 音の重なりがすごくきれい！
- 低い音、高い音の組み合わせがよかった。
- 鍵盤ハーモニカでもすごい音！聞いている方も楽しかった！！
- DJの絶妙な調整がすごかった！！
- とにかくすごい！何もかも完璧！
- 一人ずつ違う曲。合わせると素敵な曲になった。
- とても作った曲だとは思えない。とにかくすごい！
- 本当に「NANGOKU」最高！おもしろい！さわやか！きれい！
- エレクトーンと鍵盤ハーモニカの音がすごい。自分たちで作曲したとは！
- すごく大人っぽい！音色がとてもきれいだった！

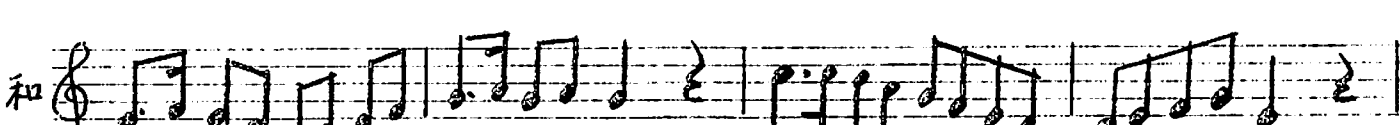


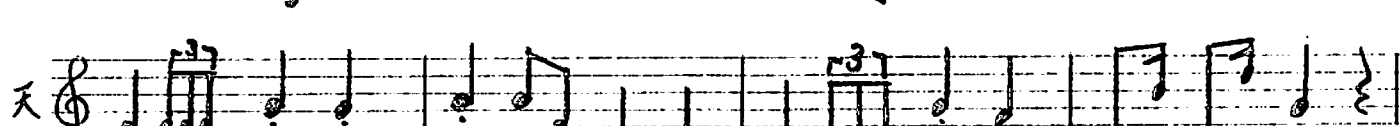
楽しい音楽 ～イントロ～ (カルボリータ)

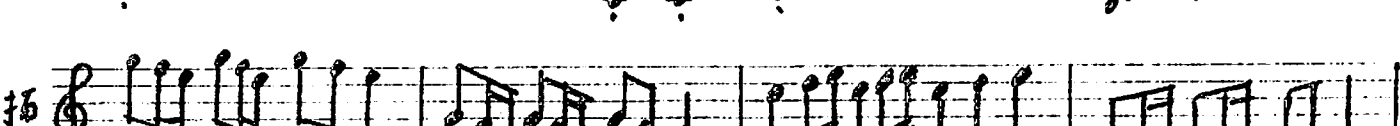
拓 

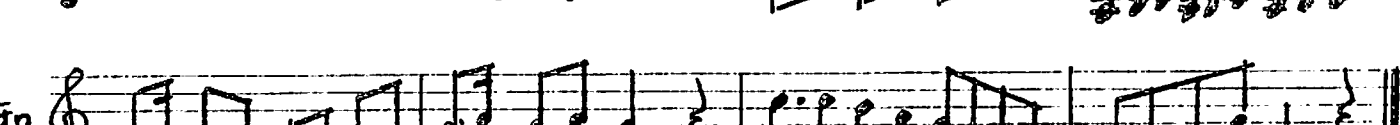
悠 

紗 

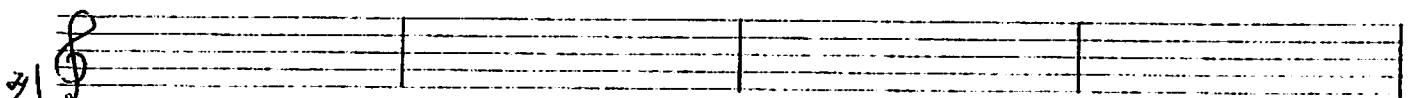
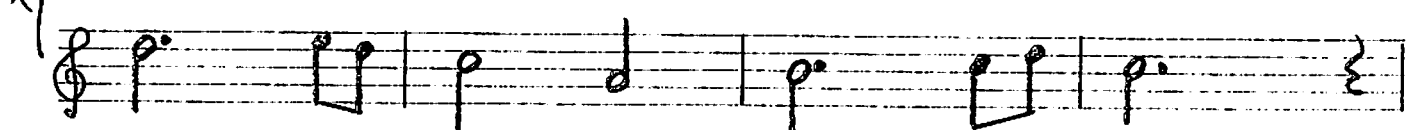
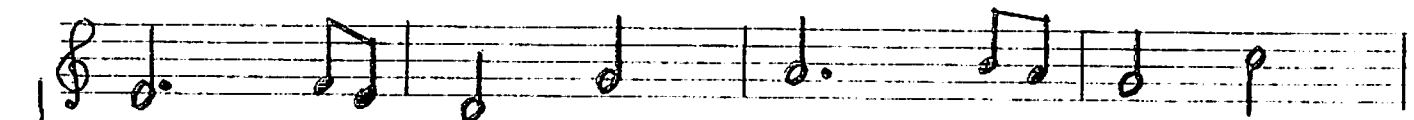
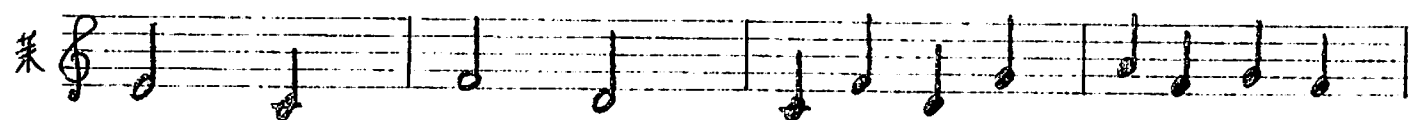
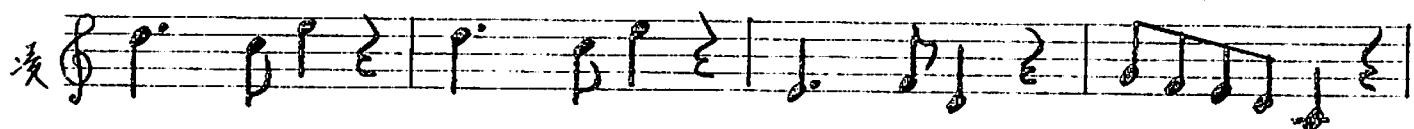
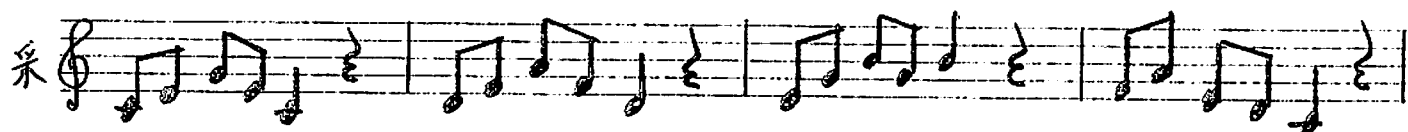
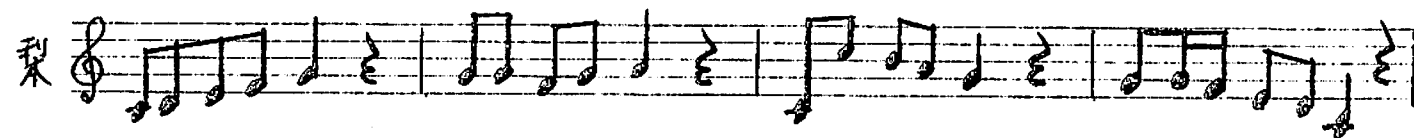
和 

天 

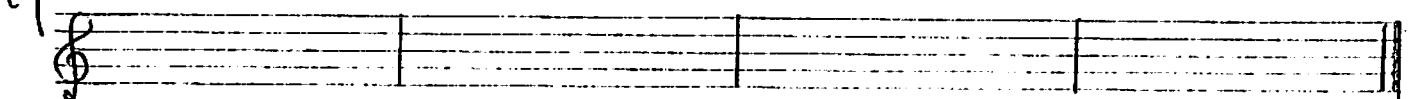
拓 

和 

アルビノーヤ (アルビノーヤ)



大和の人のロディー <リカエシ (みんはる)>



NANKOKU パーティースーは

① カルズリータ ⇒ ② アルビノーヤ のリカエシ!!